

特集「いのち ころろ ことばを一つに」

先生・奥さん、長男、次男の共同生活である。なずな寮を開いたのは今

光陰矢の如し。人は老いる。残念だが何時までも紅顔の美少年ではない。あつちこつちの不如意が表面化。高齢者相手のTVCM(腰痛・高血圧・糖尿病等)を他人事とで見ることが出来ない時間の中にいる。

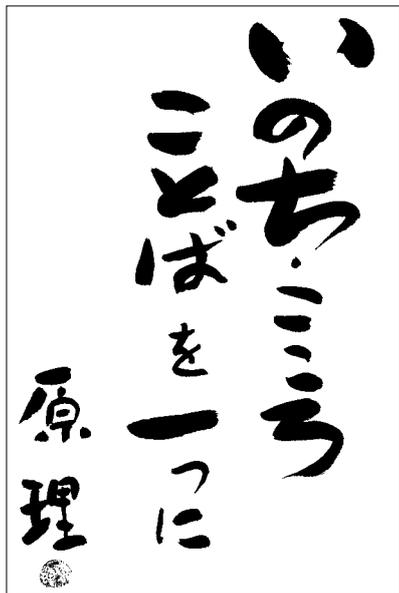
①原理先生を囲む〓余情残心の平戸研修〓のこと
から55年前、(1962)昭和37年のこと。公的援助をあてにしない、農牧を主とした共同生活。原理先生31才。奥様の美佐子先生32才。当たり前だが皆若かった。そのことを著作〓切り拓きつつ共に生きる〓でこう触れている。

…農牧には四季の優しさと厳しさがあがり、人を癒す力を持っている。様々な場面は一人一人の役割と出番を容易にする。山林を買い、原野を拓き、田畑もひろげた。野菜はもちろんこめも茶も自給できるまでになった。果樹も種々実った。鶏や山羊、そして豚は20頭飼い、生活費の足しにした。…

当時の写真が残されている。鍬を振り上げて荒地を起す。未だ、舗装道路前の時代。廃坑跡の泥道、

たきぎ取りのリヤカーを皆で引く。2000(平成12)年、この〓なずな園〓は閉じられた。原理先生69才。

全国に無数の〓なずな〓の願いを込めて原理先生は〓なずな園〓の共同生活から紡ぎだされる〓この人たちのこと〓〓この人たちの暮らしはかく有るべきだ〓の考えや言葉を発信し続けた。所謂〓やさしい言葉で深い思想〓である。傍ら、先生はこうした共同生活の実践を公開し全国の有志と交流する合宿研究会を立ち上げた。兄の歌さんは長崎師範時代にあの長崎原爆で亡くなられた。その8月9日を間に2泊3日の〓なずな合宿研修〓がそれである。この研修は1963年から2001年まで都合39回継続された。毎年8月、全国



発行日 2017. 7. 31
第 237 号
(第 1 回 発行)
1974年 4月 1日
発行所 北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎ 0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが新しくなりました！
施設の概要や理念、利用者の様子、園長からのお知らせ等、盛りだくさん！ぜひアクセスしてみてください。
ホームページアドレス
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>
Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

の仲間が〓なずな園〓に集った。筆者もその端くれ。〓自然・命・平和〓。この研修で原理先生はそのことを発信し続けた。〓平和なくして福祉なし〓。どんなに響きの良い言葉でこの人たちの権利や人権を語っても、その根底に戦争の否定が無ければ…。今年6月、原理先生を囲む研修が催された。目の前の車椅子の原理先生。そういう言い方をすれば、随分歳をとられた。余情残心の平戸研修であった。そして全国の仲間はそのそれぞれの仕事場に戻っていった。(武井)
※障害者を大切に思う仕事のこの道はこれからも長く続く。繰り返し、原点にかえって〓なずな〓の心をそれぞれの国、それぞれの地に根付かせて…。

特集 「いのちのこころ」ことばを一つに

② 無数のなずなのひとつ

千葉・北総育成園の実践

支援主任

高木 恭一

平成29年6月24日(土)～25日(日)に開催された「第9回しかまち福祉実践研究会」では、北総から高木主任が発表の機会を頂きました。原理先生と武井園長の出会いから椎茸園のお手伝いまでの歴史を紐解き、原理先生の教えが北総の支援の中でどう息づいているのかをまとめました。

1. なずなとの出会い(昭和54年)

北総育成園がなずな合宿研修会に初参加したのは昭和54年のこと。それ以降、北総では毎年夏休みを利用して3人程度の職員が長崎に行き、長崎平和公園を訪れ、なずな合宿研修会に参加し、平和と福祉について学ぶのが恒例となった。その中でも旅と酒と阪神タイガースを愛する武井園長は、これまでになずなと鹿町の合宿研修会に13回、沖縄なずな研修会に4回、宇部なずな研修会に1回参加し、多くの同志と出会い、心を通じ合わせてきた。その一つの結晶が広島旅行。なずな合宿で出会った広島・似島学園の西川先生のもとを利用者・職員全員で訪ねたのは平成元年2月のこと。長崎とともに原子爆弾を落とされ甚大な被害を受け



▲宇部なずな合宿。原理先生を囲んで。北総からは4名参加。H27.9.6

た広島。そこを全員で訪れて平和について学ぼうと企画し、何度も学習会を重ねたのち実行に移した。これが大きな自信となり、のちの韓国旅行・北欧旅行に繋がっていった。武井園長は折に触れて「平和なくして福祉なし」と話し、「平和学習」を担当している研究委員会では、毎年千羽鶴づくりに取り組み、長崎に研修に行く職員が平和公園に献納してきた。その後献納先が広島・沖縄・

東北被災地と増え、現在は毎年4千羽! になっている。

2. 私(高木)となずな(平成元年)

私が北総育成園と出会ったのは平成元年の3月で24歳の時だった。北総に面接に訪れた私は頭でっかちで社会性のない若者に見えたと思うが、武井園長(当時副園長)は履歴書で好きなことに「地理・古代史・民俗学」と書いた私のことを「好きなことがワシと同じだ」と面白がってくれ、この仕事の素晴らしさを語ってくれた。そして、渡された本

いとおしく感じた。本で見たなずな園やのぎく寮の暮らしと同じ世界が目の前に広がっていた。その日から28年、アルバイトも長く、これまで障がい者福祉の世界で働き続けてきた。

が近藤原理先生の本と、近藤益雄先生の「のぎく寮」の暮らしを写真で紹介した本だった。それまで私は福祉のことは全く学んだことがなかったし、障がい者と接することも小中学校での特殊学級の数人を除いては全くなかった。しかし、原理先生の本を読んで純粹に面白かったし、それまで知らなかった障がい者福祉の世界にどんどん引き込まれていった。北総においても就労実習初日、入り口で会った今は亡きYさんが「そんなんですよ! よろしくおねがいします!」と背筋を伸ばして握手をしてきた。立って独り言を言っている人も、座って自分のげんこつを見ている人も、なんだか皆が

平成6年には私もなずな合宿研修会に初参加した。根っからの東国人である私は、修学旅行で関西に行った以外に西日本には行ったことがなく、海と陸地が幾重にも連なる長崎の景観はただただ新鮮だった。そして研修で原理先生に初めてお会いすることが出来た。本やNHK「なずなの日々」でのイメージではもっと朴訥とした人柄を思い浮かべていたが、はつきりとした語り口で行動力を感じさせる原理先生は意外で、実践者であり発信者なのだと感じた。



▲昨年の1月・3月に整えた原理先生宅裏山の椎茸園。良い状態で管理してくださっていた。H29.6.24



▲原理先生のお宅には妹の教子さんがい
らっしゃった。「大きくと嬢の
草がたくさんとれましたよ。建物の後
お話を伺うことができました。H29.6.24
に椎茸原木置場。

3. 武井ホーム・高木ホームの実践 (平成9年)

なずなの思想に学んで生活の仕組
みを整えてきた北総育成園だが、ど
うしても矛盾を感じることはあつ
た。それは入所更生施設ゆえの集団
管理(75人定員)の部分もあり、な
ずなの暮らしとは違うのではない
か?との思いはぬぐいきれなかつ
た。しかし、北総は船橋市の障がい
者福祉の政策において、市内での通
所やグループホーム入居に適さない
人が、親元を遠く離れて入所する場
所であり、市として北総の周辺にグ
ループホームを作る考えはなかつ
た。そこで私は思いを同じくする妻
と共に、自宅でグループホームを始
めることとした。そして、その思い
は武井園長も同じだった。近藤益雄
先生、原理先生のやってきた事に比
べたら小さな事ではあるが、千葉の

地でのなずなの取り組みが始まっ
た。その平成9年のなずな合宿研修
会には武井園長が参加し、原理先生
から「千葉なずなホーム」の名を頂
いた。実際に入居者が入ったのは平
成10年からで、二つのホームが同時
にスタートした。その平成10年のな
ずな合宿研修会には、武井園長が興
さんと入居者を伴なって参加してい
る。高木ホームは平成15年まで継続。
武井ホームは平成27年、笹川なずな
工房に併設するグループホームが完
成したことで役割を終え、18年間の
歴史に幕を閉じた。

この間もなずな合宿研修会には職
員代表が参加してきたが、平成16年
には北総育成園創立30周年記念式典
に近藤原理先生が来て下さり、町の
公民館において記念講演をして頂い
た。原理先生がいつも大切にされて
いる「ゆとり・ユーモア・夢」「大
らかに・細やかに・さりげなく」「優
しい言葉で深い思想」は昭和の時
代も今も変わらず北総の職員の立ち
返るべき原点の姿勢になっている。

4. 絆から生まれた椎茸園づくり (平成28年)

平成28年の元旦に原理先生から武
井園長に、椎茸園づくりへの助力を
求める電話があった。もう高齢の原

理先生が「山のくぬぎの木がそのま
まなのはもったいない。なんとか椎
茸園を作りたい」と夢を語られた。
それを受けて千葉から長崎まで行っ
て原理先生の思いに答えたいと強く
思った武井園長。そして、「協力し
て欲しい」と私に声をかけた。その
瞬間私は「これは絶対に期待に応え
るぞ!」との思いが沸々とわいてき
た。原理先生の期待に応えたいとい
う武井園長の思いに「真心」を感じ
たことで自分の心も触発されたのだ
と思う。

平成28年の1月の末、記録的寒波
で雪の残る原理先生宅に着いた武井
園長・城ノ内補佐・高木は原理先生
の説明を受けた後、山道を整備し、
直径30cmもあるくぬぎの木を伐採し
ていった。私が平成6年になずな合
宿研修会に参加した際は、なずな園
での奉仕作業には少ししか参加出来
なかつた。それが今回まる2日間原
理先生宅の庭や裏山を歩き回り、汗
を流したことで、なずな園のあゆみ
を自分の事として感じる事が出来
た。それくらい充実感に満ちた作業
だった。

そして3月のはじめ、椎茸担当の
菅谷を加えての再訪問。くぬぎの原
木に植菌して並べ、椎茸園は完成し

た。北総の姉妹施設である長崎コス
モス会の職員2名と、千葉県の別法
人施設の長崎県出身者3名も応援に
来てくれた。

8月には絵鳩・菅谷・加瀬・安藤
の4名が訪問し、椎茸園の草刈りと
原木の天地返しを行った。原理先生
が入院される直前だった。
年が明けて平成29年になり、春3
月、待ちに待った知らせが長崎から
届いた。「椎茸がたくさん採れてい
ます」との連絡は本当にうれしいも
のだった。何度も長崎まで行った甲
斐があつた。頑張ったことが報われ
たと思えた瞬間だった。

北総育成園は昭和54年からずっと
なずなに学び歩んできた。私自身も
なずなの近藤原理先生の教えを支援
の基本理念にして働いてきた。そし
てここに来て「奉仕作業」の機会を
与えて頂いた。昨年1月と3月の長
崎訪問は私にとつての「なずな合宿
研修会」であり、心と体でなずなを
学ぶことが出来た貴重な時間だっ
た。私自身が無数のなずなの一つと
して、今後少しでも障がい者福祉の
世界で貢献していくために、エネル
ギーをもらうことが出来たと感じ
る。これからもなずなと共に歩ん
でいきたい。

特集 「いのちこころことばを一つに」

③平成29年度どくだみ採り報告

6月には林産班のどくだみ採りの最盛期。このどくだみ採りの源流は今から遡ること約35年前。当時農耕班だった武井園長が、近隣の山でどくだみがたくさん自生しているのを目を付け、農耕班の雨天時の仕事にしたのが始まりと聞いている。その後林産班がどくだみ仕事を引き継ぎ今に至る。このどくだみ仕事は6月の梅雨時期にしかできない真剣勝負。限られた時間の中で収量を確保する為には、林産班だけでどうにかなる仕事ではない。利用者の高齢化も進み以前のようなダイナミックな仕事ができない現状もある。そこは他班からも応援をもらい全園体制で取り組むことはもちろん、外部のボランティア団体や保護者の皆さんのお力をたくさんお借りして何とか乗り切っている。『明るい社会づくり船橋市推進委員会』の皆様とはもう30有余年のお付き合い。毎年「北総の為に」と朝早くから駆け付けてくださる。これは園長が長年かけて築いてくれた信頼関係があるからこそ継続だ。保護者どくだみ採りも大きな力。年老いたちはは、あにあね、お

とうといもうとが山に分け入りどくだみを探る。山のように積まれたどくだみを束ねる。その後ろ姿から、我々職員はたくさんの事を学んでいる。

外部からの応援を貰うだけでなく、職員もこの間は全員で林産班を支える。自分の時間を使って、山に分け入りどくだみを供出。しかし、これは単なる林産班の手伝い作業ではない。この時期、園長がその意味を繰り返しメッセージしてくる。「自然という人間の都合通りにいかない圧倒的な力と対峙した時、五感はその感覚が、一見理解しがたい利用者の行動の裏に潜んでいる想いに気づき、職員の都合ではなく科学的に捉える視点に繋がってくる。職員のどくだみ供出は『園内研修』として取り組んで欲しい」。その言葉を胸に職員一人ひとりが山に分け入り、自然、そして自分自身と向き合う。今後、ますます利用者の高齢化が進む中で、どくだみ仕事にどこまで取り組めるかわからない。しかし、このどくだみ仕事は職員を鍛える有効な機会である。外部の力もお借りしながら、これからも継続していきたい。

たくさんの方々のお力を貸して頂いて採ったどくだみは、現在乾燥まで終了し、米袋に詰め保管。薬効だけでなく皆さんの善意の気持ちも入っているこのどくだみを、今年も責任を持って販売していきたいと思う。皆さんどくだみ茶のご購入よろしくお願います！

(林産班チーフ 菅谷)

30年以上どくだみ採りボランティアを継続してくださっている「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様より感想をお寄せ頂きましたのでご紹介します。

■ドクダミ採りと

ラッキョウ加工に参加して

明るい社会づくり船橋市推進委員会

事務局長 渡邊 高延

6月7日(水) 午前6時55分、25名を乗せたマイクローバスが船橋を出発。途中トイレ休憩をし、園の手前で須賀山城址が右手に見えました。鎌倉時代に栄えたこのことです。そして北総育成園に到着しました。園長先生がお出迎えをしてくださり、階段を下り講堂に入りました。この園は昭和49年4月1日に開園となり、建物を改築し現在に至っているとのこと。園の利用者は70名以上で生活していますが全員1人部屋

に住んでいます。

園長先生のご挨拶があり、林産班の話、農耕班の説明を受け、ドクダミ採り18名、ラッキョウ加工7名に分かれ、ラッキョウはすぐ近くの作業所へ、ドクダミ採りはバスに乗り農家の駐車場に車を止め、歩いて杉の林に到着しました。清々しい風が吹き、そこは一面ドクダミの群生地。ドクダミの独特なおいがして、虫も寄りつかないような所でした。聞いた話ですが、蛇が怪我をした時にそこに入り、怪我を治すような所だそう。いよいよ作業の開始です。職員の方から手順を教わり、鎌でドクダミを採り、それを籠に入れ、沢山になったら紐で束ね、利用者が小型トラックに運ぶのです。そのような作業を繰り返していました。私のそばに利用者の方が立っていました。この人はなにをするのかと思つてい



▲ボランティアさんが刈ってくださったどくだみは運び名人の利用者がと運ぶ。声を掛けてもらえる嬉しい。H29.6.7

北総 育成園 訪問記

北総では年間を通してたくさんの方の見学を受け入れを行っております。実際に利用者が働いている作業風景や、一輪の花がある居室の様子を見て頂き「働く」と生きること「一期一会」輪の花」の北総精神の実践をお伝えしています。

去る5月9日には船橋市法典地区民生児童委員の皆様37名、6月2日には浦安市民生児童委員協議会東地区の皆様23名が来園され、作業や生活の様子を見学されました。感想を寄せて頂きましたのでご紹介いたします。

① 北総育成園を見学して

法典地区民生児童委員 田口 國夫

5月9日、恒例の移動民協（バス旅行）で総勢30数名の委員と共に法典公民館から出立しました。

バスに揺られ約3時間あまりで育成園に到着し坂道を歩き、園の本館入口へ案内され、足の悪い委員は園の車に乗せてもらい、心配りに感心いたしました。

入口前には可愛い犬が2匹と手作りの野菜、布製品、工芸品等が迎えてくれました。

ホールに案内され、各々の席に北総育成園の北総の里、マップ、広報紙、園長の冊子と手作りの箸置きが置かれており、これから園の紹介と館内を案内すること、本日の研修

目的を理解し、襟を正しました。

本園が43年前に船橋市が障害施設として設立したことを初めて知り、武井園長の慈愛に満ちた園の紹介・説明を受けました。

障害者75名の方がそれぞれ農耕班、手芸班、林産班等の8班に所属し、各班での物品を生産、作成する為働いているとのことでした。

紹介・説明を終え職員の方に館内を案内していただき、この施設の簡素で清潔な各自の部屋、食堂、休憩所等を見せていただき、この園であれば働いて生活するには家族の方も安心であると思いました。

今回は時間的制約で作業種目を見られたのは館内の手芸班で繊細な針仕事や機織り等の作業をてきぱきこなしている姿を見て感動しました。

時間があれば陶芸班、木工班及び外での農耕班、林産班の作業も見学できたら一緒に作業をしてみたいと思いました。

障害を持ちながら、一生懸命生活されている方、温かく見守り指導されている職員の皆様の健康を祈り、短い時間でしたがお世話になりありがとうございました。

② 気づかせて下さり、ありがとう

法典地区民生児童委員 堀木 絹子

「船橋市手をつなぐ親の会」発足20年にして北総育成園開設に至るには

多くの困難やご苦労がおりだったと推察いたします。43年の歴史の中で培われた北総育成園の理念は、日々の実践で次の世代へ引き継がれ発展されておられます。

園での毎日の営みの中で、職員の方々が胸に刻み心掛けておられる言葉を教えていただきました。

顔を立てる（尊う）、折り合いをつける（譲る心）、立つ瀬を残す（和）、このことを心の芯に置き、共に働き、共に育つ、この人たちが失業者にならない、毎日のささやかな笑顔を大切に、スリッパを揃えよう、この人たちの役割と出番を持たせる、を實踐しておられる事はお互いに人として成長し続ける姿ではないでしょうか。

すでにこの園では職員と利用者さんで、共に生きる一つの地域社会を形成されておられます。ここを基に近隣の住民、地域社会が互いに混じり合い、地域住民や他の方々がこの北総の里へ働きに来たり利用者さんが他の地域へ働きに出て帰って来る場所になったら正にインクルーシブなところではないでしょうか。

「働くこと・生きること」を柱にお互い助け合い寄り添って穏やかに日々を送る場として更に進化してゆかれる事を願っております。

民生児童委員としても個人としても多くの事を気づかせて下さりありがとうございました。皆様が健やかに

お過ごし下さるよう願っております。

③ 浦安市民児協

東地区研修会に参加して

浦安市民生児童委員協議会

東地区 渡辺 貞夫

東地区研修会は6月2日、16名の参加で実施されました。社会福祉法人さざんか会北総育成園（香取郡東庄町）を見学しました。

同施設は船橋市から指定管理を受けた知的障害者入所型支援施設です。同施設は1974年船橋の知的障害を持った子の親が「この子の未来のために生きる術を学べる施設」を作ろうという想いから始まりました。

それから43年、75名の入所者と58名の生活支援者（職員）がまるで家族のようなアットホームな雰囲気醸し出していました。

施設の理念は「働くこと 生きること」で介助、介護よりも入所者と職員が協力して様々な作業を行うことをメインにしています。入所者にはできる所までやって貰う、そのあとは担当者がカバーする原則が見て取れました。その点で職員にはプロのスキルが求められるそうです。と同時に障害者に仕事をやって貰うにはかなりの忍耐力も必要だと想像できました。現在は広大な敷地に農耕、園芸、手芸、木工、陶芸、林産（椎茸山）、紙工芸の7班があり、それぞ

れ想いのこもった食品、製品を生産、販売しています。我々もその想いに動かされ、ついつい多く購入してしまいました。

各居室は、船橋市の協力により完全個室になりスペースも充実していましたし、且つとてもきれいでした。

一番印象に残ったのは、入所者の高齢化が進む中、職員の負担と悩みは大変なものと思像できますが、それでも生き生きと働いている様子でした。仕事を通して世の中に直接、役に立っているという感覚が彼らの行動や笑顔に現れているのでしょうか。我々も大いに参考にすべきと感じました。

④北総育成園を見学して

浦安市民生委員児童委員協議会

東地区 清水 明

6月2日(金)の午後1時ころに到着してすぐに白樫副園長から園の概略を伺いました。武井園長はご不在でしたが、副園長のお話から、園長のお考えや思い、更にはお人柄まで伝わってきました。利用者をおくまで大切にしたい、今流行りの言葉で言えば「利用者ファースト」の理念を以前から一貫してお持ちなのだと感じました。副園長も園長の理念に共感して、生き生きと仕事をしておられるのだと感じました。

一方で職員の方々は大変なのではないかとも思いました。園長の理念

は、見学した居住スペースや就業スペースの隅々にまでゆき届いており、それを実現されているのは職員の方々なのですから、きつと大変なのに違いないと思つたのです。でも、職員の方々が総じて明るいことに安堵感を覚え、やはり園長に共感しておられて、外から見ると大変なことと思えることを、使命感と達成感をもって日々を送られているのだと感じました。

私は70に近い高齢者で、いわゆる社会人を終えた人間です。今になつてようやく福祉や地域といった社会に目が行くようになりまし。社会人を終えて社会に目が行くというのは言葉としては矛盾ですが、社会の意味、もしくは範囲が違うのでしょうか。この園を見ての感動も、今ならではのことと思います。いわゆる社会人のときより少しは優しくなっているように思えて、自分自身の今にホッとしています。

到着してから帰るまでずっと感じ続けていたのは、「明るい」ということです。そして利用者の方々の目が「さらさら」しているということ。帰り際に、焼き立てのパンと採れたての野菜を買いました。利用者の方々のお仕事の成果です。そして、職員の方々のゆき届いたお世話の賜物です。更には、園長のこの仕事への情熱の果実なのだろうと思いました。

第4回須賀山城址開山祭り報告

去る5月27日(土)、第4回須賀山城址開山祭りを実施し、地域の皆様をはじめ沢山の方々にご来場いただいたが無事終える事ができました。この行事はH26年度、北総育成園40周年事業の一つとして、園長がこの地でお世話になつた恩返しとして須賀山城址の整備を提案され、平成25年度から高木主任を中心に整備が続けられてきました。平成26年5月、野の花広場と共に披露目、北総育成園の地域福祉の拠り所と恩返し」という園長の思いが込められて第1回須賀山城址開山祭りを開催。須賀山城址整備はその後も継続され、今年度は第4回須賀山城址開山祭りとなりました。

第4回の実行委員長として、北総、笹川なずな工房、やまだ自然の3施設による打合せから入らせていただき、当日に向けて精一杯取り組んできました。私自身、初めて経験する事の連続で一杯一杯になりながらの準備期間でした。

今回は前回と比べても、お客さんが増えて賑わつたのを感じました。回を重ねる事で、地域に周知され、根付いてきたのかと思えます。それはこの行事だけでなく、北総開所より武井園長をはじめ、多くの先輩職員が地域との付き合いを重ね、さざんか祭り・北総の

夕べといった地域に向けての行事を続けてきたことが大きいと思います。日頃の活動により北総が地域の一員として認められ、受け入れられてきた歴史が今回の行事に繋がっているのだと感じました。年に一度の地域に向けての行事を実施する事は多くの労力を要しますが、大切な地域との交流の機会、北総の取り組みを知ってもらう機会、職員がレベルアップする機会として必要なのだと感じました。

園としての須賀山整備もまだまだ続くので、今回の開催に手ごたえを掴むだけでなく、もっと良く出来るのではという意識をもって次回に臨み、「5月の終わりには開山祭りがある」と一人でも多くの方に思ってもらえるような行事になればいいと思います。

(第4回須賀山城址開山祭り実行委員長

加瀬 裕一)



▲本丸広場に東氏家紋、九曜紋の幟旗が翻る。H29.5.27

街道をゆく

135

第9回
しかまち福祉実践研究会
に参加して

① 原理先生の言葉から学んだこと

今回、6月24日(土)〜25日(日)に開催された「第9回しかまち福祉実践研究会」に園長、高木主任、平塚さんと共に参加させて頂いた。

2日間のプログラムでは、原理先生が主宰する「なずな合宿」を通して学んだこと、その事をご自身の仕事にどう実践されているかを、福岡の大場先生、「山口宇部なずな」の有間先生、「沖縄なずな」の蒼生学園・砂川先生、嵩西先生、長崎純心大学の澤先生、北総からは高木主任、そして原理先生の教え子であり、現在も原理先生のご自宅の資料整理等をお手伝いされている上野さんからそれぞれ発表があった。上野さんの発表は「原理先生語録〜背景と心を考える〜」と題し、原理先生が今までに生み出してこられた言葉を年代別に紹介。昭和40年代から平成20年頃までの原理先生が発信された言葉について、著書、福祉書籍への寄稿、講演での発言などを調べ、その言葉

が生まれた背景を考察されており、とても勉強になった。上野さんの優しく誠実なお人柄と、原理先生への感謝の気持ちがひしひしと感じ取れた。なずな寮がスタートし、時代と共に現在進行形で生まれていった言葉、30年の月日が流れ、振り返ってみて生まれた言葉。全てが今も色褪せることなく、キラキラと輝いて私たちに進むべき道を教えてくれる。原点にして常に新しい。新人からベテランまで、どの年代の人にも、自分の仕事を振り返る中で、胸に刺さる言葉が必ずあると感じる。今の私に一番刺さった言葉は、「おおらかにこまやかに さりげなく」の「さりげなく」とは？の中にあり、それは「怒らない。腹を立てない。嫌味をくどくど言わない。合っているか違っているかだけで判断しない。追いつめない。相手に思いを馳せ、ごく自然に関わる。当たり前にふるまう。プライドを傷つけない。ユーモアで接する、夢を持つ。」である。「さりげない」視点を持つには実にこれだけの具体的な示唆があるのだ。これは日々の利用者への支援において、常に心に置いておかなければならぬ大切な視点だ。私達職員は知的障害を持つ利用者より絶対的に強い立場にある。ともすれば上から目線で

利用者にあれこれ命令したり、自分の都合を押し付けてしまう怖さが潜んでいる。原理先生の具体的でわかりやすい教えにまた一つ大きな気付きを頂いた。また、「心を読む」では「内面の心を読んでいくと『親を思う』『異性を思う』『仕事をしたい』『認めてほしい』『うまいものを食べたい』『旅行をしたい』と私たちの願いと同じという事がわかる」とある。これも本当にそうだなと思う。そんなささやかな願いを叶える為に私たちがいるのだから、謙虚に仕事に向き合わなければと改めて思う。障害者福祉に携わる者として、原理先生を知っていると知らないのでは雲泥の差だと思う。原理先生の教えを身近に感じる事ができる北総の職員は本当に幸運だと再確認できた研修となった。そしてこの研修で学んだことを北総の職員と共有し、日々の支援において実践していきたい。

(絵鳩)

② 「なずな」の思いに触れて

研修会の前段で、原理先生が会場にいらして参加者全員が先生の前に立ち、挨拶する機会が与えられた。園長からお話を聞いたり、著作で足跡を知ることがあったが、直接お目にかかるのは初めての事。園長と対面された際に原理先生宅の椎茸の話

が出ると目を細められていた。長年に渡って築かれてきた、なずなの結び付きの強さ、原理先生を慕い参加されている方々の絆の深さを肌で感じた。

大場康司氏(福岡県立川崎特別支援学校)解説による、DVD「ナイスタイム」(KTN・1990年3月12日)の上映では実際のなずな園の様子を知る事が出来た。映像には、なずな園の家庭的な環境でいきいきと生活をする様子が映し出されていた。研修会に参加する前に、実際になずな園に立ち寄る機会を頂けた。午前中に見てきたあの場所での人たちが身を寄せ合って暮らしていたのか、とか、さほど大きくはない普通の民家、近所との距離も近いあの土地で、数十年に渡って障害者との共同生活を続けていたのか…等と感慨深いものがあった。地域から離れた不便な場所に大規模な障害者施設が次々建設される中、行政の方針や時代の流れと逆行し、補助金もなしに地域で障害者との共同生活を始められた原理先生。原理先生が日本の障害福祉にもたらしたものの大きさ、制度など何もないところからスタートし、30年以上障害者と共に生きて来られた功績の大きさを改めて知ることができた。

(平塚)

村議会だより ⑩

去る5月17日(水)、第45期北総の里村議会選挙が行われた。村長に立候補したのは福田さんと山本さんの2名。山本さんは、村議員連続当選で自信をつけ、満を持して村長に立候補。一方福田さんも、過去の村長経験回数と魅力的な人柄から自他ともに認める“名誉村長”。実に19期連続の村長選出馬である。

一方議員立候補者の顔ぶれはというと6議席に対して9名が立候補。堀川さん・斎藤さん・石井さん・渡辺さんは現職議員であり、連続当選を目指しての出馬。現村長の大河原さんは今期は村議員に鞍替え。そして再選をねらう、堀越さん、安部さん、猪瀬さん、石毛さんが村議員立候補に名乗りを挙げ戦いがはじまった。

いよいよ迎えた投票日。村長選では序盤から山本さんが票を伸ばし、激戦必死と思われたが50票以上の大差での当選となった。日頃からTさん(障害の重い利用者)の面倒を良く見てくれる姿が得票への力となった。続いては村議員選。結果は安部さんがぶっちぎりのトップ当選で2期ぶり議員に返り咲き、続いて実力派の堀川さん、現村長の大河原さんが続き、44期では一票の差に涙をのんだ堀越さんが再選した。44期でトップ当選だった石井さんは5番手での当選となった。最後の一枠はわずか1票差で6期ぶりに猪瀬さんが当選した。次点の石毛さん、そして現職だった渡辺さん、斎藤さんは残念な結果となったが、二人とも落選を大きく引きずることなく戦いを終えた。

第45期北総の里村議会が始動する。今期は新しく「平和推進課」を設置。北総の大切な精神である「平和なくして福祉なし」を日々の生活の中で実践していくことが目的だ。具体的には千羽鶴の作成となり、課長には毎年鶴をたくさん折って千羽鶴作成に協力してくれる堀川さんを任命した。45期の議会も自分達の暮らしについての話し合いはもちろん、園内外に囚われない様々な事について話し合いを持ち、この人達の気持ちや可能性を引き出せる場にしていけたらと思う。歴史ある北総の自治活動・村議会が今年度も活発な議会となるように全職員で支えていきたい。(余暇部会主任 菅谷)

選挙報告



第45期 北総の里村長は

山本 泰三さん

▲第45期北総の里村長、村議員ここに誕生！
向かって右より村長の山本さん、村議員の安部さん、堀川さん、大河原さん、堀越さん、石井さん、猪瀬さん。H29.5.17

第45期 北総の里・村長村議員選挙投票結果

【村長】

Ⓧ	123 票	山本 泰三	75 歳	(元)
ⓧ	71 票	福田 克三	66 歳	(元)

【村議会】

Ⓧ	38 票	安部 百合子	65 歳	(元)
Ⓧ	31 票	堀川 明美	45 歳	(現)
Ⓧ	30 票	大河原 一男	61 歳	(現)
Ⓧ	23 票	堀越 正明	57 歳	(元)
Ⓧ	22 票	石井 武明	45 歳	(現)
Ⓧ	17 票	猪瀬 美佐子	40 歳	(元)
ⓧ	16 票	石毛 洋平	38 歳	(元)
ⓧ	9 票	渡辺 庸一	58 歳	(現)
ⓧ	9 票	斎藤 敬子	55 歳	(現)

育てたアサガオ見て

船橋 障害者ら、市に15鉢寄贈



松戸市長(左)にアサガオの鉢植えを手渡す北総育成園の代表ら＝船橋市役所

香取郡東庄町にある船橋市障害者支援施設「北総育成園」(武井敏朗園長のサカオ、11月にはシクラメンを20年以上続けて寄贈園内で丹精込めて育てたアサガオ15鉢を市に寄贈した。市役所には「村長」の山本泰三さん(76)ら3人が園を代表して訪問、赤紫色の花を咲かせたアサガオを松戸市長に手渡した。

去る7月11日(火)、船橋市の松戸市長さんに園芸班の朝顔をお届けすることができました。このことが7月20日(木)の千葉日報と毎日新聞に掲載されました。ここでは千葉日報の記事をご紹介します。

北総利用者は高齢化し、一人ひとりの“働くこと生きること”のエンジンは一頃より随分小さくなってしまいました。しかし、今は今の馬力があります。その人なりの“働くこと生きること”に支援職員の加勢。その成果を市長さんにご報告出来た嬉しい機会となりました。

やることのある暮らしが一人ひとりの生きる力を引き出します。その力が自分より弱い立場の人を助ける力となります。(武井)



平成29年度 桜の写真コンテスト



1位

■寸評■ 昭和49年(1974)年に開園した当園は今年で44年目の坂道を上る。この間、平成10年千葉県緑化事業で、園周辺に200本の染井吉野やボタン桜が植えられた。その他、機会があれば植えられた桜。それらは樹齢20~30年が主力で今が一番育ちが良い。見事に全山桜山。車を停めて思わず眺める人数知れず。その風景は“西の吉野か東の北総か”と詠んでも全く違和感なし。今年もその下で“利用者と桜”コンテスト。職員保護者の得票で順位が決まったが、もっと上手に撮ってやればいいのに…下手くそな作品ばかり。
(武井)

◀「きれいにさいたよ」
撮影者：三浦



2位

▲「春が来た」
撮影者：平塚



3位

「春の散歩道」▶
撮影者：高木



特別賞



◀「あるがままに
あたりまえに」
撮影者：杉本

「今年も生きてた」▶
撮影者：上條

特別賞



さて、半年ぶりの「北総の里」の発行となりました。今号では「いのち・こころ・ことばを一つに」と題しまして、原理先生が発信される教えが北総の中でどう息づいているか、様々な角度から取り上げ掲載しております。ボランティアや見学者の方からも多くご寄稿頂きました。内容が盛りだくさんで通常より2ページ多い10ページ構成となっております。お待たせした分、充実した内容になっていないと思いません！読者の皆様にとって得るものがある広報紙であれば幸いです。
(絵鳩)

編集後記

たいして雨も降らない内に梅雨が明け、関東地方では猛暑が続き水不足も心配されています。その一方で九州地方では集中豪雨による甚大な被害がありました。亡くなられた方のご冥福をお祈りすると共に、一日でも早い復興を願います。

ホームページがリニューアル!

<http://www.hokuso-ikuseien.org/>

この度、㈱スリーライトさんと共にホームページをリニューアル!トップページからはドローンで撮影した北総の全景を動画で見ることができます。全ページ通して“働くこと生きること”“一期一会一輪の花”といった北総精神を感じて頂けるものになっています。採用ページにも力を入れています!「北総ブログ」では、広報紙「北総の里」も閲覧できます。ぜひアクセスしてください!(容量の関係でスマートフォンでは動画ではなく静止画のご案内になっております。)